



田中 智子
総務部副部長・会計課長事務取扱

| 主な経歴 | |
|-------|---------------------|
| H4.4 | 入館 |
| H17.7 | 主題情報部科学技術・経済課（主査） |
| H18.4 | 主題情報部科学技術・経済課（課長補佐） |
| H20.7 | 収集書誌部国内資料課（課長補佐） |
| H23.4 | 収集書誌部収集・書誌調整課（課長補佐） |
| H25.4 | 総務部総務課（課長補佐） |
| H27.4 | 総務部主任参事 |
| H30.4 | 収集書誌部外国資料課長 |
| R2.4 | 収集書誌部国内資料課長 |
| R5.4 | 総務部副部長・会計課長事務取扱 |

これまでの経験を振り返って

複数の部署を経験し、多様な業務経験を積んできましたが、特に新規事業の立ち上げや既存業務の見直しに参画することで、多面的なものの見方や柔軟な対応力が身についたと感じています。特に印象に残っているのは、納本制度による収集実務を担当した際、民間出版物の納本手順等の大規模な改定に関わったことです。変更にあたっては、関係する民間団体との調整や館内の手続の見直しなどに中心的に取り組みましたが、法規上の原則を逸脱せず、関係者間で利害の調整を図っていくには、制度や相手側の立場に対する理解とこれまでの枠組みにとらわれない検討や発想が大切だと痛感しました。管理職になってからも、課員がリスクを過度に恐れず、自発的に課題対応ができるような雰囲気醸成と問題意識・方向性の共有は特に意識しています。

現在は、総務部会計課長として、国立国会図書館の予算要求や執行管理の全体調整を担当しています。国の財政状況が厳しい中、館の事業に予算を確保し、法令にのっとり適切な会計事務の執行を継続するためには課題も多く、内外との調整には困難もありますが、同時にやりがいも感じています。国立国会図書館の多種多様な事業に「資源配分」という観点から直接関与できる部署であり、対外的な調整が不可欠であることを含め、総合的な視点を身につけることができると考えています。

国立国会図書館を志望する方へ

国立国会図書館には多様な業務がありますが、それぞれ「文化の蓄積」「サービスの提供」などを通じ、理念的にはつながっており、全体の政策的な方向性を理解した上で個別課題に対応することが成果につながっていきます。多様な経験と柔軟な吸収力から幅広い知見を持つことが特に大切です。新しいことにチャレンジする積極性と周囲から広く学ぶ気持ちを持った皆様と一緒に働けることを楽しみにしています。



予算について部下と相談



河辺 照彰
調査及び立法考査局行政法務課長

| 主な経歴 | |
|-------|-----------------|
| H10.4 | 入館 |
| H21.7 | 関西館文献提供課（主査） |
| H22.4 | 関西館総務課（課長補佐） |
| H25.4 | 関西館文献提供課（課長補佐） |
| H26.4 | 総務部企画課（課長補佐） |
| H28.4 | 総務部総務課（課長補佐） |
| R2.4 | 総務部主任参事 |
| R4.6 | 調査及び立法考査局行政法務課長 |

国立国会図書館の業務の魅力

現在、行政、地方自治、民事・刑事、人権等の分野の立法調査業務の担当課長として、膨大な所蔵資料と契約データベース等を情報源に、国内外の情報を適時に国会議員等に提供する業務に従事しています。我々が行った回答が国会審議に活用されることも多く、やりがいを感じるとともに、我々の活動が国政に直結することの責任感を意識しながら、正確な調査・分析を心掛けています。また多様な国政課題について調査研究を行い、その成果を刊行物、セミナー等で発表しています。

私は、入館以来、様々な業務に従事してきました。国立国会図書館の魅力は、一つの職場でありながら多岐にわたる業務を経験できる点にあります。一見無関係な業務に見えても実は関連があり、後に役立つことがありますし、幅広い視点を持つことも可能となります。私の場合、例えばシステム部門でのネットワーク構築の経験を閲覧部門での公衆無線 LAN 導入に、閲覧部門での実務経験を総務部門での法規整備に、いかすことができました。それと同時に、国立国会図書館は採用前のバックグラウンドの多様性に加えて、採用後も各部署でたゆまぬ努力を続け、高度な専門知識を習得した職員が多数存在します。広い視野を持ちつつも、核となる高い専門性を有する職員が多い点は、まさに多様な情報を収集・整理し、高度な情報ニーズにも応える国立国会図書館ならではの魅力と感じています。

国立国会図書館を志望する方へ

国立国会図書館のサービスは、様々な方々（国会関係者、来館・遠隔利用者、出版者・書店等）に支えられています。今後、電子化が進進しても人とのコミュニケーションの重要性は変わらないでしょう。立法調査業務では依頼の趣旨を正確に把握することが大切ですが、これは他の業務にも求められる能力です。私が新たな課題に直面したときは、館内外の方々に率直に相談することで、貴重な助言・支援を得ることができました。チームで取り組むと、より良いアイデアが生まれ、達成感も一層大きなものとなります。

デジタル社会の到来に伴い変革期にある国立国会図書館の将来像を、共に考えてくださる意欲的な皆様との出会いを楽しみにしています。



海外の法令について情報を収集